

お知らせ

2022年3月31日(木)
北海道エアポート株式会社
新千歳空港事業所

「ひまわり支援マーク」(ストラップ)のトライアル配布を実施

北海道エアポート株式会社は、中央大学研究開発機構並びに公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団の支援により、新千歳空港ターミナルビルをご利用される、認知症、自閉症、不安症等の外見では判断できない、目に見えにくい障害をお持ちのお客様に安心してご利用頂く取組みとして、ひまわり支援ストラップの配布を行います。

対象者: 認知症や自閉症、学習障害、不安症、精神障害、高次脳機能障害、視覚障害、聴覚障害などの外からは見えにくい障害がある人

実施場所: 新千歳空港ターミナルビル: 国内線総合案内所
日本航空スペシャルアシスタンスカウンター

実施期間: 2022年4月4日(月)～9月30日(金)

1. 目的

「ひまわり支援マーク」(ストラップとカード)は、認知症や自閉症スペクトラム、学習障害、不安症、精神障害、高次脳機能障害、視覚障害、聴覚障害などの外からは見えにくい障害者の困りごとを見えるようにすることを目的としたものです。ひまわり支援マークを着けている人や同行者が空港を利用する際にお手伝いや少しの時間を必要としていることに職員が気付けるようにするサインです。

2. 背景

2006年に施行された「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律(バリアフリー法)」では、高齢者と身体障害者に加え、知的障害、発達障害、精神障害のある方も含むすべての障害者が対象となることが示され、更に2018年には公共交通事業者等によるハードとソフトの一体的な取り組みの推進が明文化されました。また、共生社会の実現のための「ユニバーサルデザイン2020行動計画」の中において、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会以降のレガシーの一つとして、成田空港、羽田空港第3ターミナルは、世界トップレベルのユニバーサルデザインの空港整備を目指すことが記されました。成田空港において空港として始めて取り入れられた[カームダウン・クールダウンスペース*1]は、その後、羽田空港国内線ターミナルや旭川空港などの空港で取り入れ始められています。こうしたハード面からの取組に続き、「ひまわり支援マーク」は、人的な支援というソフト面から安心な空港利用に繋がるものと考えています。

*1 [カームダウン・クールダウンスペース]は、外部の音をなるべく遮り、外気温や湿度に左右されず、気持ちを落ち着かせることが必要になる方々で、発達障害の方、知的障害の方、精神障害の方、認知症者等が利用される場所です。詳細は以下の頁を御覧下さい。

<http://www.ecomo.or.jp/barrierfree/pictogram/calmdown-cooldown/>

3. 配布方法

空港内総合案内所やプライオリティチェックインカウンターなどでお客様からのご要望により配布(配布時に障害者手帳や診断書などは不要)。ストラップ式(カード、ケース、吊り下げ紐)と配布用リーフレットを併せて配布。

4. 配布対象者

ひまわり支援マークを着けたいと考える方

※ ひまわりのマークをデザインしたこの取組は、2016年イギリスのロンドン・ガトウィック空港から始まったもので、現在、世界20カ国、98空港で採用、または採用予定となっており、更にこの取組は、イギリスでは他の公共交通機関などへと広がっています。

(取組元: Hidden Disabilities Sunflower Scheme Limited)

Front view of the English language card. It features a green header with the 'sunflower lanyard scheme' logo. The card has four input fields: 'first name', 'family or guardian contact', 'family or guardian number', and 'Any special assistance needs?'. At the bottom, it says 'printed on fully-recycled paper'.

Front view of the Japanese language card. It features a green header with the 'sunflower lanyard scheme' logo. The card has four input fields: 'お名前' (Name), '連絡先 住所' (Contact Address), '連絡先 電話番号' (Contact Phone Number), and 'どのようなお手伝いが必要ですか?' (What kind of assistance do you need?). At the bottom, it says 'printed on fully-recycled paper'.



カードの裏面: 必要情報記入欄

名前 / 連絡先住所 / 電話番号 / 必要な支援内容
(左: 英語、右: 日本語)

表面

ストラップ紐

5. 主催 支援団体

■ 中央大学研究開発機構

産学官の連携による学際的共同研究を通じて、現代社会における喫緊の課題を解決できる知を生み出し、それを社会に還元することを目的として、1999年7月に設立された機関です。秋山研究室は其中で、「超高齢社会における交通施設のインクルーシブデザインとモビリティシステムの研究」をテーマに様々な研究を行っています。

■ 公益財団法人 交通エコロジー・モビリティ財団

1994年に『財団法人交通アメニティ推進機構』として運輸大臣(現国土交通大臣)より設立認可され、1997年には業務内容の充実を図るとともに、名称を『交通エコロジー・モビリティ財団』に改め、運輸及びその関連分野における移動円滑化(交通バリアフリー)の推進並びに環境対策の推進を図ることを目的とし、人と地球にやさしい社会環境の実現を目指して活動を推進しています。

< 本件に関するお問い合わせ >

北海道エアポート株式会社 新千歳空港事業所 情報システム課: toshiko.oikawa@hokkaido-airports.co.jp
公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団バリアフリー推進部: bari-info@ecomoo.or.jp